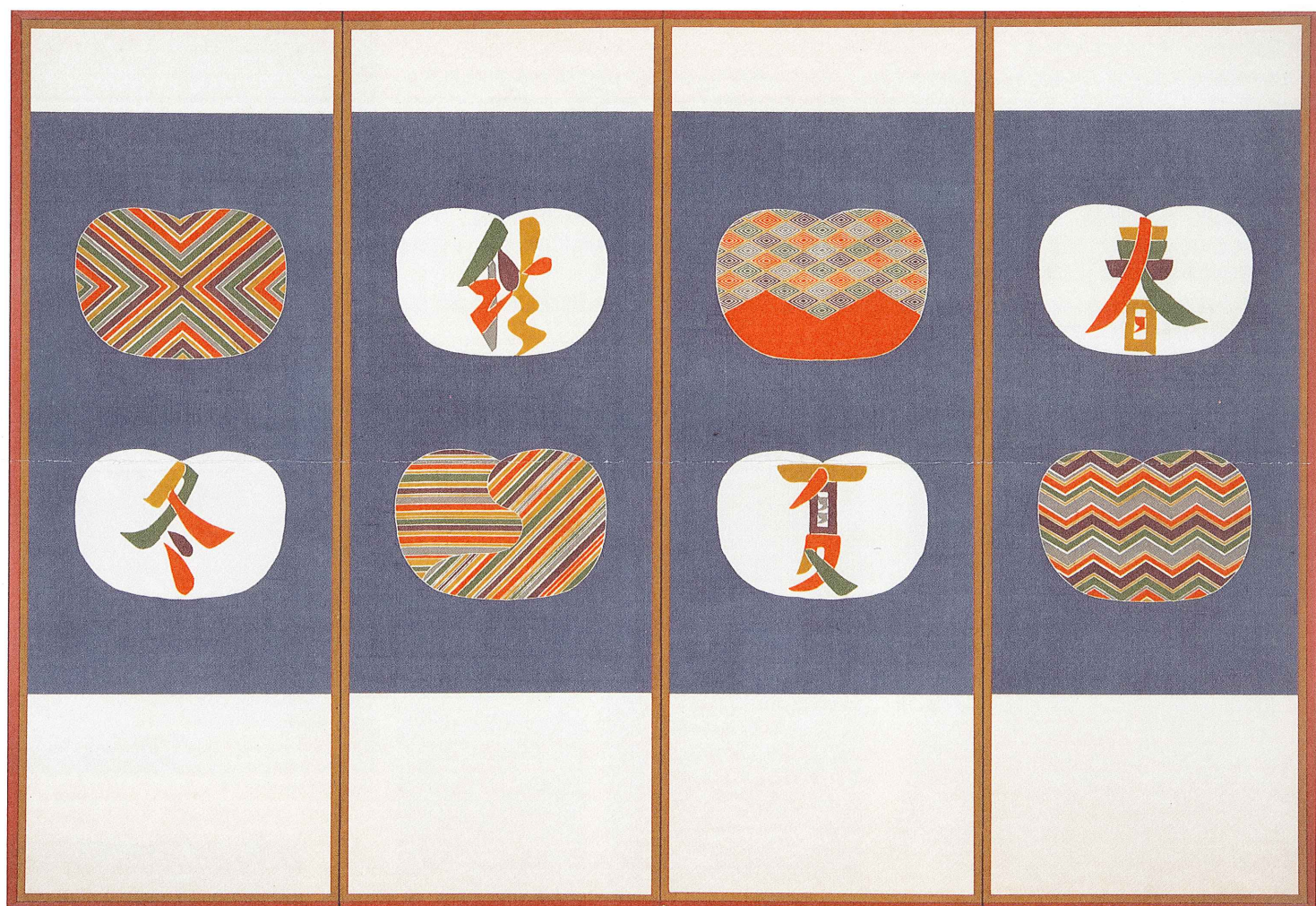




《州浜形四季文屏風》 1970年

宗廣コレクション

芹沢銑介展

手仕事を愛でる — ある染織家の渾身の蒐集

平成24年2月11日(土)～3月25日(日)

主 催：岡崎市美術博物館、中日新聞社

開館時間：午前10時～午後5時（入場は午後4時30分まで）

休 館 日：毎週月曜日

観 覧 料：一般1,000円(800円)／小・中学生500円(400円)

※()内は20名以上の団体料金

※岡崎市内の小・中学生は無料

※各種障がい者手帳の交付を受けている方及びその介助者は無料



岡崎市美術博物館
【マインドスケープ・ミュージアム】

愛知県岡崎市高隆寺町峠1 [岡崎中央総合公園内]
TEL.0564-28-5000 FAX.0564-28-5005
<http://www.city.okazaki.aichi.jp/museum/bihaku/top.html>

静岡市の呉服商に生まれ、東京高等工業学校で図案を学んだ芹沢銈介（1895-1984）は、柳宗悦の著作「工芸の道」に深い感銘を受け、また、ほどなく沖縄に古くから伝わる紅型に出会い、強く魅了されると、染色家として、民芸運動の道へと進むことを決意します。

旅先の風景や日常の暮らしのなかから導き出される形と、それらを模様へと造形化する絶妙な色彩感覚と構成力。芹沢の作品は、ひと目見れば芹沢その人のものだと思える揺るぎなさを備えており、「型絵染」の作家として、重要無形文化財保持者（人間国宝）にも認定されました。

染織家であり、自身も民芸の思想に深い共感を寄せる宗廣陽助氏は、芹沢の作品に魅せられ、長年にわたりその蒐集を続けてきました。装丁や絵本、商品パッケージなど、大量生産品も多数手がけた芹沢ですが、宗廣氏のコレクションを占めるのは、屏風や暖簾、着物など、芹沢が下絵制作から染めまでの工程を一貫して手がけた作品と、ガラス絵や板絵などの私的で親密な制作による1点ものの肉筆作品ばかりです。そこには、自身も作り手であり、手仕事を慈しむ宗廣氏ならではの強いこだわりと美意識があります。

ひとりの染織家の渾身のコレクションを通して、芹沢の作品の魅力と共に、芹沢への深い憧憬と尊敬の念に溢れた所蔵家の思いに触れていただければと思います。



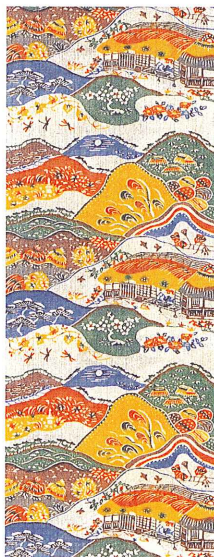
宗廣邸内（撮影：宮川邦雄）



《染みいろは文字文着物》 1954年



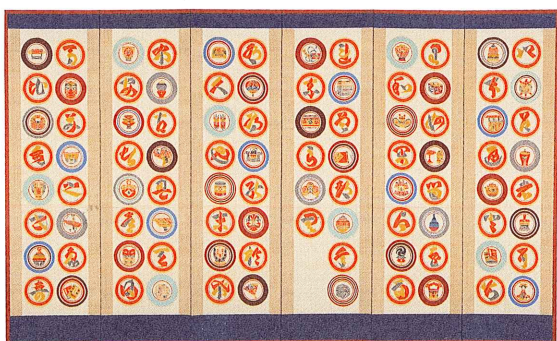
《伊作紙漉》 1948年



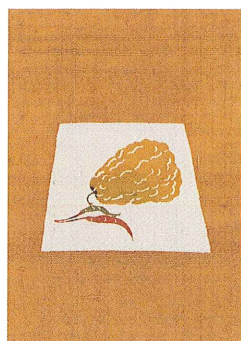
《津村小庵文帯地》 1967年



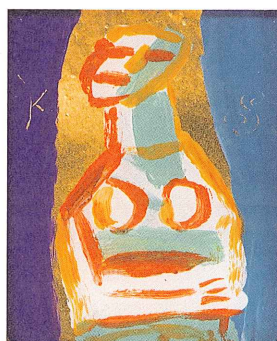
《みのけら図屏風》 1957年頃



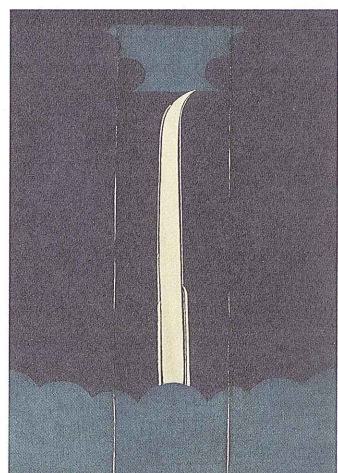
《丸紋伊呂波屏風》 1963年



《蔬果文（はやと瓜と鷹の爪）》 1970年頃



《キクラデス》 1975年



《御滝図文のれん》 1962年

【記念講演会】

3月3日（土）午後2時～「所蔵家が語る芹沢の魅力」

講師：宗廣陽助（紬織り制作者）

会場：当館1階セミナールーム 定員：70名（当日午後1時より整理券配布）、聴講無料

【講演会】

2月26日（日）午後2時～「民芸の思想と個人作家—蒐集と創造—」

講師：濱田琢司（南山大学人文学部日本文化学科准教授）

会場：当館1階セミナールーム 定員：70名（当日午後1時より整理券配布）、聴講無料

【学芸員による展示説明会】

2月19日（日）、3月18日（日） いずれも午後2時～

会場：展示室内、参加無料（ただし、当日の展覧会チケットが必要です）

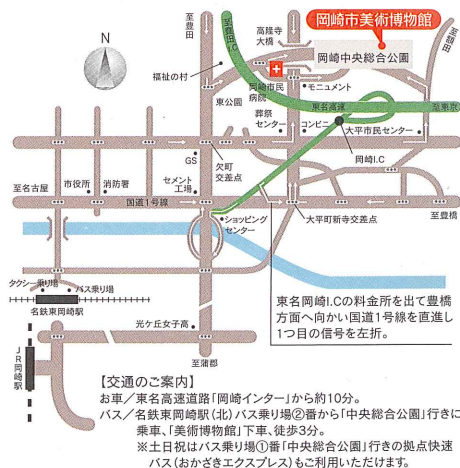
岡崎市美術博物館

【マインドスケープ・ミュージアム】

愛知県岡崎市高隆寺町峠1〔岡崎中央総合公園内〕

TEL.0564-28-5000 FAX.0564-28-5005

<http://www.city.okazaki.aichi.jp/museum/bihaku/top.html>



【交通のご案内】

お車／東名高速道路「岡崎インター」から約10分。

バス／名鉄東岡崎駅（北）バス乗り場②番から「中央総合公園」行きに

乗車、「美術博物館」下車、徒歩3分。

※土日祝はバス乗り場①番「中央総合公園」行きの拠点快速バス（おかざきエクスプレス）もご利用いただけます。